

学習会(子ども会)だより 12月号 前編
MY SKY 第14号
マイ スカイ

1995年12月12日火曜日発行(毎月第2・第4土曜後の火曜日定期発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責:吉成社

いよいよ今年も残りわずかとなりましたね。みんなが忙^{いそが}しくなる季節。「忙しいから」と言っ^て、自分を見失わないように、お互い気をつけましょうね!

今回、本当にたくさんのことを載^のせたいと思います。けど、枚数が多くなると読^よんでくれないかもしれないので、できるだけ短^きく記^し事にしたいと思います。ですから、短い中で、多くのことを感じ、考えてみてください!

まずは、前号の中^しで記^しきれていなかったことについて、書きたしておきます。

学習会(鯉好^こと^い鯉)を大きく変えていくという事について記しましたが、なぜそれを思いついたのか……。それは、今の学習会(鯉好^こと^い鯉)南会場の1年生がヒントとなったのです。

「仲間づくり」が、すべての基本。南会場に行った先生^{いんしやう}の誰^もが、そんな印^{いん}象^{しやう}を受けたようです。

残念ながら今までの学習会(鯉好^こと^い鯉)は、「仲間づくり」をどこかでいい加^か減^{げん}にしていたように思えます。そこにメスを入れるには、とにかく「話し合^はい」だという結^け論^{ろん}に達したのです。そして、今の自分たちの周りにある問題を解決していくように、知^ち恵^えを合^あわせ、行^{ぎやう}動^{どう}へとうつしていく。そんな学習会(鯉好^こと^い鯉)が、南会場の1年生には実^{じっ}践^{せん}できていました。ただそれを、全体のもの^しにしていこうとしているだけなのです。

それと、学習会(鯉好^こと^い鯉)場でされている教科学習のことについてもつけたしておきます。はっきり言っ^て、学習会(鯉好^こと^い鯉)は塾^{じゅうく}ではありません。たとえそれが、教科学習の時間であつてもです。学習会(鯉好^こと^い鯉)では、教科学習をしながら、「仲間づくり」をしていく。そんな学習会(鯉好^こと^い鯉)にしたいのです。塾ではそんなことはされないと思うんです。グループ学習などを取り入れ、教科学習をしながら、「仲間づくり」ができればと考えます。先生方! 一^{いっ}考^{こう}ください!

それと、「学習会」というネーミングを「解放子ども会」に変えるということですが、実^じは他^{ほか}にもそれ^に似^にたことはあるんです。

例えば、人によれば「同和の人」という言い方をする人がいます。私からすれば「なんじゃそりゃ?」ってえな感じなのです。「(被差別)部落の人」と言われればはっきりわか

るのですが、「同和の人」っていうのはどうもピンとこない！

ということであれば、「同和問題学習」という言い方も「おかしい！」ということになってくるんです。部落差別の結果出てきた問題についての学習をするのは、やはり「部落問題学習」であるべきだと思うんです。

それに「同和教育」という言い方。これについては、一番納得いきません。「同和教育」と聞くと「同和地区の人のための教育」と受け取られても仕方ないように思うんです。けど、決してそうじゃないと思うんです。これはあくまでも、「すべての人間が解放されていくための教育」だと思うんです。となれば、「(人間)解放教育」と言った方が、よっぽどすっきりして、誤解もないと思うんです。

今まで、私自身の中であって、うじうじしていたので、すっきりしました。私はこれから、「同和」という意味の通りにくい言葉をやめ、はっきりとわかる言葉を使っていきたいと思います！



①学習会(解放子ども会)解放クリスマス会によせて(12月16日:総合センター)

学習会(解放子ども会)の解放クリスマス会の計画が、実行委員会を中心にして、日々できあがってきてます。どんなことをするのか？詳しい全容は明らかにされていませんが、どうやらサンタクロースが登場してくることは確かなようです。それも、未だかつて目にしたことのないようなサンタクロースが……。これは是非とも見なくてははいけません。きっと、きっと、みなさんを楽しませてくれることでしょう……。フフフフ……。

ところで、解放クリスマス会ですが、当然話し合いの時間を持ちます。その中で、いろんな話題が出るでしょうが、是非ともわかっておいてほしいことは、「まだ部落差別は現実として残っているんだ」ということです。遠くにも、近くにもです。

先週私が仕事から帰るなり、私の父が1枚の新聞を持ってきました。広島に住んでいる姉のところに行っていた帰り、中国新聞(広島県の新聞で、徳島でいう徳島新聞のようなもの)というのを買ってきました。その中に、部落問題についての記事が載っていたのです……

寒い心映す「落書き」

徳山市立中央図書館の2階。利用者は閲覧席で思い思いにページをめくる。注意して見ると、閲覧席の間仕切り板には削ったような跡が残る。「エタ」「非人」と書いたり、身障者用の席に「こううん(幸運)のイス」と刻むなど、被差別部落の人々や身

障者、宗教団体などを中^{ちゅうしゅう}傷^{さむざむ}する寒々とした20近く^{さむざむ}の差別落書きが3カ月前まで確かにそこにあり、利用者の目に「悪意」^{あくい}を発信^{はっしん}していた。

この落書きは8月初め、閲覧席で見つかった。12席あるうちの6席^{きじょう}の机上^{たな}や棚などに、硬^{かた}くとがったもので刻^{きざ}み込まれていた。

....中略....

さらに懸念^{けねん}される点もある。刻み込まれた落書きの一部は色が違い、8月初めに気付いた利用者からは「最初^{はつしう}は（落書きは）もうちょっと少なかった」との声も。一人の「悪意」ではなく、利用者の手で「悪意」^{さうしよく}が増殖^{ぞうしき}していったふしもあるのだ。

《1995年12月4日付け：中国新聞から》

差別落書き。板野町では、今はあまり見られませんが、いまだ全国で、被差別^{ひさつべ}の立場にある人々^{のり}を罵^{ののし}るような差別落書きがあります。近くにある問題じゃないからといって、放^{ほう}っておくわけにはいきません！近くであろうが、遠くであろうが、腹が立つことに変わりはありません！私たちは、狭い社会の中で生きています。もともと、広い視野^{しや}で物事^{ものごと}を捉えねばならないと思います。そして、やはり差別^{さつべ}を許さない、差別をなくしていくような生き方を、常^{つね}に全^{すべ}ての人がしていかなければならないと思うのです。

しかし、実は板野町でも差別^{さつべ}が厳然^{げんぜん}と存在^{そんざい}しています。それも、かなり大きく根強い差別意識^{ねつよ}です。

「訪宅^{ほうたく}研修^{けんしゅう}（宅<家>に訪れる研修）」というものをみなさんは知っているでしょうか？板野町内の教職^{きょうしき}員^{いん}と、役場^{やくば}などの板野町行政^{ぎやうせい}の人がペアになって、板野町内の全部の家を一軒一軒家庭訪問するのです。そして、部落問題^{ぶつらくもんだい}について、正しい知識・理解を広め、部落差別^{ぶつらくさつべ}の解消^{めいご}を目指^{めざ}していくのです。

私も、板野町内を回りました。その中で出てきたのは、やはり差別的な意識でした。

相手「もう差別やないでよ。こうやって一軒一軒回って言うたりするけん、差別がなくならん^なの違^{ちが}うで。なんも言わなんだら、自然になくなるんでよ。同和の教育やするけんなくならん^なのんじゃ」

私「いや、ほらもう誰も何も言わんのだったらほれでいいかもしれんけど、やっぱり言う人がおるんですよ。ほれも、いいこと言うてくれるんだったらいいんやけど、悪いこと言う人がやっぱりおるんですよ。ほれに、同和教育っていうんは、部落のことばっかし勉強するんではないんですよ。」

底^{そこ}に潜^{ひそ}む今までの差別意識^{さつべいしぎ}が、第2、第3の差別^{さつべ}を、新^{あら}たに生^うんでいる現実に直^{ちよくめん}面^{めん}しまし

た。その原因は、正しい知識・理解の不足です。

大きな矛盾にぶつかることもありました。

相手「もう差別やないんちゃうで。もうこんなこと言わんでええん違うん。」

私「いや、まだ結婚の時には差別にぶつかることがあるんですよ。」

相手「ああ、結婚はなあ……。」

私「でしょ。っていうことは、まだこの教育は必要なんですよ。そうでしょ。」

相手「ほらまあなあ……。」

自分の中に矛盾があるということに気づいていると思うんです。しかし、それをきちんと整理して考えようとはしていない。やはり、教育や啓発は必要です。

相手「昔はいろいろと悪かったけど、今はもうようになったでえな。逆に向こうの方がよくなっとるぐらいじゃ。逆差別じゃわな。

あんな法律があるけん、こないになるんでよ。」

私「いえいえ、法律があったから、良くなったんですよ。法律がなかったら、今のようになってたと思います？ならんでしょ。そう考えたら、やっぱり法律があつて良かったんですよ。」

同対策事業に対する誤解も、板野町内に蔓延しているようです。

団地の入居料についても、よく話が出てきましたが、同対策事業で建設されたのだから、入居料に差があつて当然です。それでもまだ料金が低いとおっしゃる方！町外の団地の入居料と比較してみてください。板野町は格安です。同対策事業があつたことで、みんなの生活が助かっているのです。

そんなふうにして、もつれにもつれた部落問題の糸を、一本一本ほどいていくことをしていかなければならないんだと思うんです。

また、「こんな教育はいらない」という方々！これからの時代は「人権・環境・福祉」の時代ですよ。それが、世界的な流れで、流行の最先端なのです。ナウいんです。わかります？

今の日本人は、何事においても自分は闘わず、自分以外のものに闘わせる習慣があるようです。大人も、子どもまでも。それでいて、「平和だ」と自分に言い聞かせている。いわゆる「平和ボケ」というやつになってます。本当は、ぜ～んぜん平和じゃないんですよ。右を向いても左を見ても差別社会のまっただ中にいるんですよ。

だからこそ、闘うことを、私たちは思い出さねばならないと思うんです。現状維持は、

闘い続けていないと無理だと思っむりうんです。放っておけば、どあとんどん後ずさりしてしまいま
す。闘むってるくらいがちょうどいいんだと思っむうんです。ちなみに、闘う相手は、差別です。

今までと全然話が変わるかもしれませんが、みなさんは「ぜんぜんゴーマニズム宣言」というマ
ンガ知ってますか？知ってなければ、是非とも知ってください。なんなら、私の机の上に
あります。「東大一直線」や「おぼっちゃまくん」をかいていた小林よしのりというマン
ガ家がかいています。

実は、部落問題について、マスコミや雑誌が深く取り上げるといことは、今までタブ
ー(囁ささやかうちに言てはいけないことになってしまっていること)だったのですが、そこに大胆にも踏み込み、マンガ
化したのがそれなのです。これは読みやすく、実にリアルです。はっきり言って、お薦め
です。是非とも多くのみなさんに読んでいただきたい。

その中で、カミング・アウトという言葉がよく出てきます。「自分の立場を明らかにす
る」ことだと思います。中には、「自分の立場なんか言わなくたっていいじゃないか！言
うから余計に差別がなくならないんだ！」という方かたがいます。けど、「言わなくてもいい」
ということは、「言ってもいい」ということですよ。けどこう言う人は、「言うこと＝
いけないこと」というふうふうに捉えていると思っとらうんです。つまりは、「隠しておこう」「伏
せておこう」「臭いものにはフタをしよう」「触らぬ神にたたりなし」になっていると思
うんです。

こういう消極的な捉え方では、残念ながら差別はなくせないと思っとらうんです。言わずに
いつの間になくなってしまいうのではなく、言っても差別を受けないうような、差別
を受けても跳ね返せるうような、そんな社会にしていきたいと思っとらうんです。そのためにも、
解放クリスマス会、多くの仲間ともで学習したいと思っとらいます。

時代の最先端を走るみなさん！がんばろう！



①伝統技術「太鼓の皮張り」の報告&「食肉センター見学」の大募集！！

太鼓の皮張りを、伝統技術として継承している人が板野町にけんがくいることを知っているでし
ようか。太鼓屋儀三郎八代目吉岡義信さんがそのひとです。今では県内でも非常に珍めづしい
存在になっています。そんな大切な伝統技術を発掘できないものかと、2年生数人で見学
に行ってきました。その報告をしておきます。

まず、牛の皮はどこから届けられるかというとどと、食肉センターなど、私たちが日頃口に

している牛肉などをさばいている屠場^{とば}から届けられるのだそうです。しかし、すぐに腐^{くさ}ってしまうため、剥^はがれた皮は、いったん塩漬^{しおづ}けにされます。ですから、皮が届いたすぐは、まだ肉が薄^{うす}くついているんだそうです。皮は、場所によって厚^{あつ}さが違い、それによって、靴^{くつ}、カバンなどに分けられるんだそうです。小さい太鼓^{たいこ}に使う皮は、主に腹^{おも}の部分の薄^{はら}い皮。大きい太鼓に使う皮は、主に背^せ中の厚^{あつ}い皮なんだそうです。ちなみに、「面^{つら}の皮が厚い」という言い方をしますが、本当に顔の皮は厚いんだそうです。胴^{どう}の皮の10倍はある

塩漬^{かんづ}けにして届いた後、寒風^{かんふう}にさらして乾^{かわ}かすのですが、これが、かったい、かったいんです。どう表^{ひょうげん}現すればいいのか困^{こま}るくらい固^{かた}いんです。割^われない下敷^{したじ}きのような感じです。けどこれが、あ〜ら不思議^{ふしぎ}！水^{みづ}に浸^{ひた}しておくと、こんにやくのように柔^{やわ}らかくなるんです。まるで魔法^{まほう}のようでした。

そうやって柔らかくしておいてから、だいたいの形を取って切り、太鼓にかぶせます。(ちなみに、1頭からかなりたくさんとれます)皮を張^のるために、伸^のびなく切^きれない麻^{あさ}のひもで縛^{しば}るのですが、どこまで伸^のびるのか……。それは素人^{しろうと}ではわからないようです。長年のカンで判断^{はんだん}した後は、よく晴れたお天気^{てんき}のいい日に、皮を太鼓の胴^{どう}につけるため鋏^{びよう}を打ちつけます。今回その作業^{さぎょう}を私たちの目の前でやってくれましたが、鋏^{かんかく}を打つ間隔^{かんかく}が、太鼓を一周する間^{あいだ}でバラバラにならず、ぴったり合ったのにはビックリしました。さすが！

作業が終わってからいろいろとお話を聞きました。まず、太鼓の皮張^{ちゅうもん}りの注文^{ちゅうもん}ですが、やはりお祭りの前後で、四国四県はもとより、遠くは名古屋からの注文も受けたことがあるそうです。なお、太鼓の胴^{どう}の方はけやきで作られ、長年使われているのだそうです。太鼓の内側^{うちがわ}に、作られた年号を書いているのですが、私たちが行ったときにあった二つの太鼓のうちの一つは明治26年に大阪で作られたもの。もう一つは、江戸時代^{ぶんか}の文化という時代に作られた年代物^{ねんだいもの}でした。すごい！！

最後に、おじいさんがこんなことを言っていました。

「何十年も前の太鼓が届けられたときに自分の先祖の名前が入っていると、やっぱり感慨^{かんがい}深いものがある……うちの家系図^{かけいず}は、太鼓の中に入っている。」

最後の言葉の中に、太鼓と生活を共にしてきた、何世代にもわたる人々の生き様^{さま}が詰^つまっているような、そんな気がしました。

★ ★ ★ ★ ★

太鼓の皮張りのつづき！！

実は、今回の見学に行っていたとき、行っていた仲間から「次は食肉センターに行こう！」

という声があがってきました。

ということで、下記の日程で徳島市食肉センターへ見学に行こうと思います。参加希望の人は、申込締切日までに、私のところへ申し出ておいてください。

みんなで勉強しに行こう！！

期 日 12月25日(月) 8:30 中学校出発 昼には帰校

申込締切日 12月15日(金)



◎劇団はぐるま座「亡国の構図」板野公演を成功させよう！板中研究実行委員大募集！！

紙面が残り少ないので、簡単に書くことにします。

来年2月、山口県を本拠地に持つはぐるま座という劇団が徳島県に来ます。県内10カ所で公演をする予定なのですが、そのうちの一つとして、板野公演(2月21日)を実現しようではないかという話が持ち上がってきているのです。

しかも、1日に2回公演をしてもらい、1回目は板野中学生だけに観てもらってはどうかというふうに進んでいるのです。場所は、文化の館です。

ところで、劇の内容ですが、みなさんは田中正造という人物を知ってますか？恥ずかしながら1年前まで私は知らなかったのですが、その田中正造という人物を描いた劇なのです。「誰じゃ？そりゃあ」という人のために……。

明治の中期「足尾銅山・鉍毒事件」という事件が起きました。原因は古河鉍業にあるということが明らかであるにも関わらず、政府はそれを認めようとはしません。その中で、農民40万人が被害を受けていきます。そして政府は、その対策として、一つの村をため池にすることで解決しようとしていきます。これら、政・官・財の得手勝手な対応に憤然とした田中正造は、一生涯をかけ、農民と共に闘っていきます。

といった内容の劇です。そこで、「この劇を早く観てみたい！」「田中正造についてもっと知りたい！」という雰囲気を作るため、中学校で「亡国の構図」研究実行委員会を作り、生徒のみなさんの間に広めていきたいと思っています。生徒会にも働きかけ、協力してもらおうと思っていますが、広く公募しようと思っていますので、「おっしやー！やってみよう！」と思う人は、私のところまで言ってきてください。よろしくお願いします！！



◇ ◇ これからの日程 ◇ ◇

私が今年になって、変わったこと。それは、とにかく新聞、本を読むようになったことです。^{せんじつ}先日も次のような記事が新聞に載っていました。

マレー半島・^{しんじゅわんこうげき}真珠湾攻撃—^{たいへいようせんそうかいせん}太平洋戦争開戦^{しゅうねん}54周年

12月8日、きょうは「永^{えい}久^{きゅう}に不戦^{ふせん}を誓^{ちか}う日」です。

^{せんごほしよ}戦後補償、^{ぐんしゅく}軍縮を^{じつげん}実現し、^{きやうせい}アジアと共^き生^{せい}を！^{たけしま}徳島と^{おきなわ}沖縄を結ぶ連帯行動の強化を！

《1995年12月8日付け 徳島新聞から》

^{よぼうほうはいし}らい予防法廃止へ ^{けんせいかくしよほう}厚生省検閲報告「ハンセン病 ^{かくり}隔離^{しゅうしふ}必要ない」 88年間の差別に終止符

《1995年12月9日付け 徳島新聞から》

日本人が忘れてはならない、太平洋戦争。いったん戦争が起これば、社会は不安定になります。そして、そのしわ寄せは、必ずと言っていいほど、社会的に弱い立場の人々にかかってきます。老人、女性、子ども、など……。

私たちは、真の平和を求めるため、この人間教育をさらに押し進めねばならないと思うのです。毎日のように人権に関わる記事が載っています。載っていない日がないくらいです。そういう時代の流れを、しっかりと、私たち一人ひとりの中に引き寄せてきましょう！

★ ★ ★ ★ ★

☆12月13日(水) 生徒会執行委員会役員選挙

★12月16日(土) 学習会クリスマス会（総合センター：14：00～）

☆12月22日(金) 2学期終業式

★12月25日(月) 食肉センター見学（中学校出発：8：30）

☆1月8日(月) 3学期始業式



太鼓の皮張り見学